

しなののうた

わが海馬をくすぐりすぎ
る春一番 心騒げる
甘きさとさやき



杉田小百合

しなののうた

放埒のわが身惑わす春一番
夜の嵐がくさび打ちくる

杉田小百合



しなののうた

春を呼ぶ菜花を食めば故郷の母と摘みにし幼な日浮かぶ



杉田小百合

しなののうた

ころころと笑っているかのプリムラの桜の色に艶めき覚ゆ

杉田小百合

